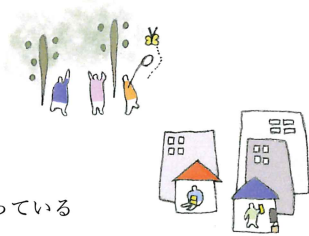




繋ぐ殻

保育の今までとこれから

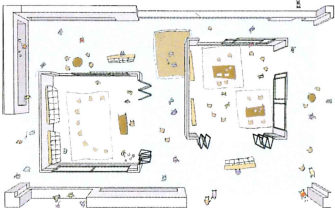
昔の子供達は、外で友達と遊ぶ中で人間関係において様々なことを学んだ。しかし現代の子供たちは、家で一人でテレビゲームやスマホのアプリで遊ぶことが多く以前のような学びのきっかけが希薄になっている



本来「殻」とは物体の表面を覆うものであるが本提案では内部空間である室内を覆う大小様々な開口を持つ箱のようなものを新しい「殻」として定義する
その殻が生む内部でも外部でもない空間が園児同士、園児と地域、内と外を繋ぐ役割を果たし内でのふるまいが外に飛び出していくように誘発する

殻が生み出す3つの効果

1 様々な居場所を確保する
殻により、内部、外部の空間以外にも外から見えない、中から見えないなど様々な特性がある半外部空間や殻自体に居場所ができることで各園児がそれぞれの好みの場所で活動を行うことができる



2 共有する半外部空間
殻の中の内部空間同士が半外部空間を共有して利用することで交流が生まれ両空間が繋がる



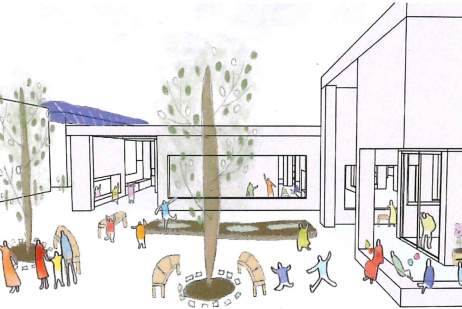
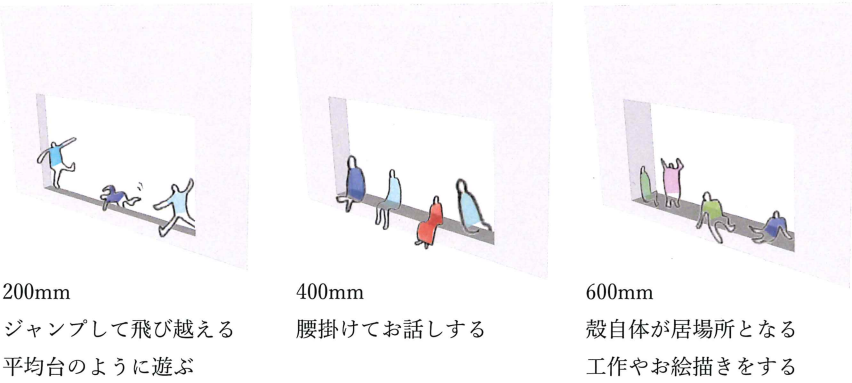
3 遊びを誘発する
殻に開いた様々な高さ、厚さの開口が園児と地域の人々の居場所を確保すると同時に園児の様々な活動のきっかけを与える

園児の成長にあわせた殻の開口

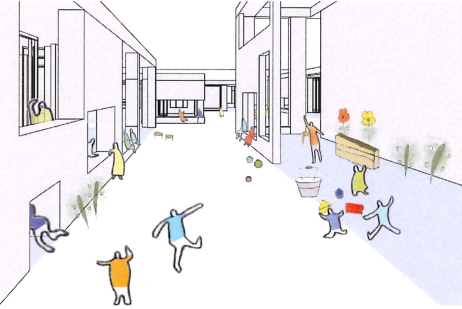


各年代の園児の身長に合わせて4種類の高さの開口を設ける。その開口は、園児しか通れないトンネルになったり、作った泥団子を並べてみたり、様々な活動のきっかけを園児に与える。

殻の厚みによって生まれる活動



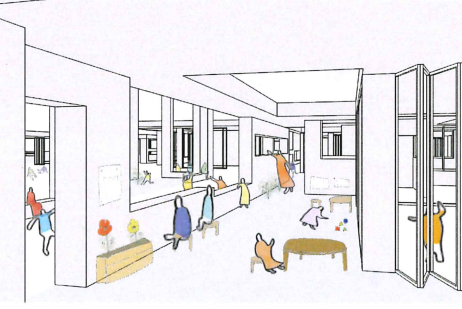
公園から学びの広場を見る



西側から2・3歳児保育室と遊戯室の間の道を見る

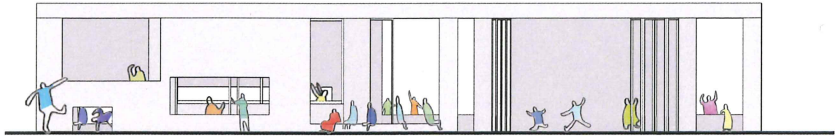


公園側から地域の広場を見る



地域の広場から図書室を見る

道の立面を彩る殻の開口



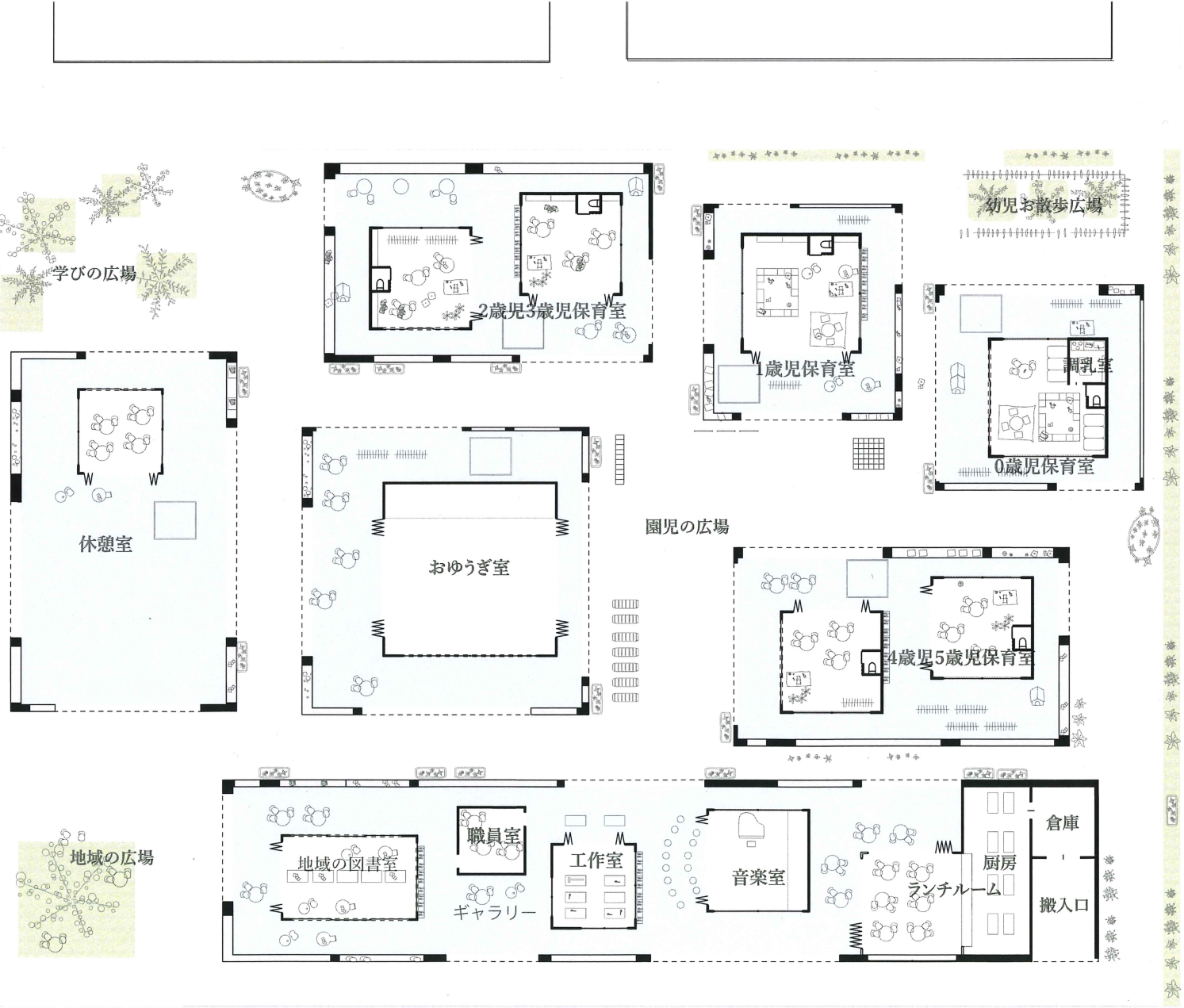
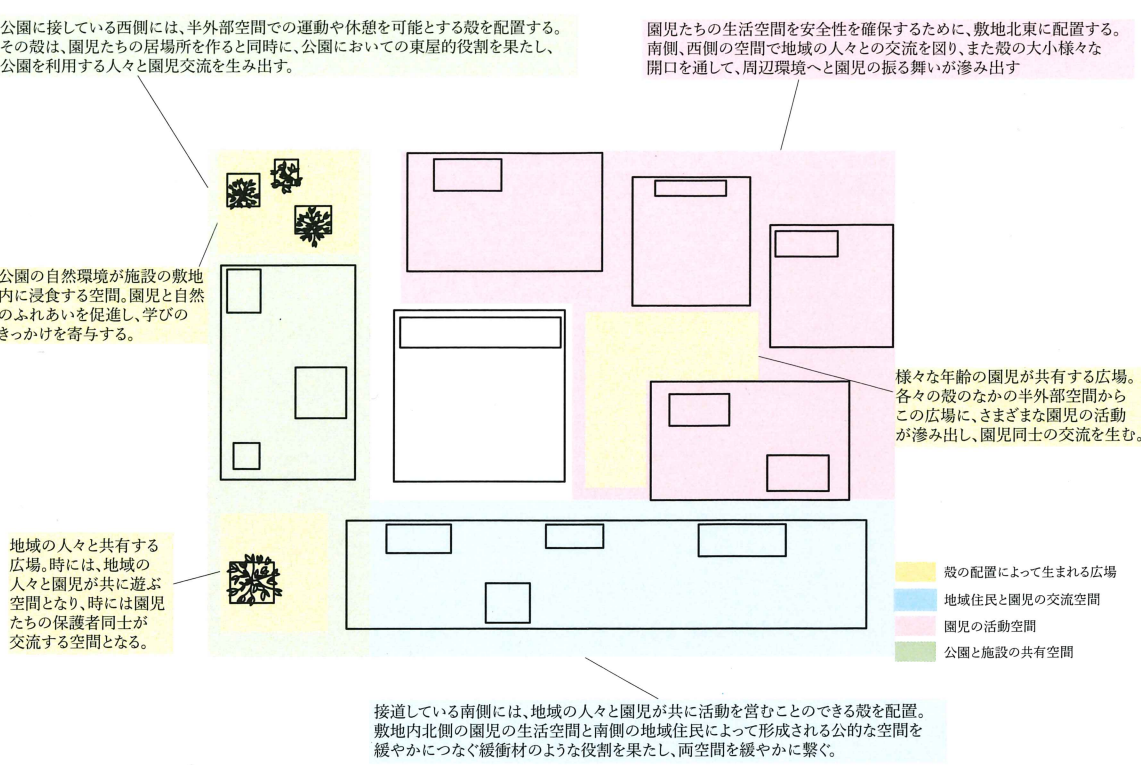
殻に設けられた開口によって、殻内部の活動が道にしみ出し、道の立面を彩るとともに、道と殻内部の交流を生む。

全体として一つの景観づくり



大小異なる大きさのボリュームは、配置によって全体として一つの景観をつくっている。また住宅側や公道側に小さいボリューム、敷地中央に大きいヴォリュームを配置している。

3つの広場の特性と周辺環境に呼応した殻の配置計画



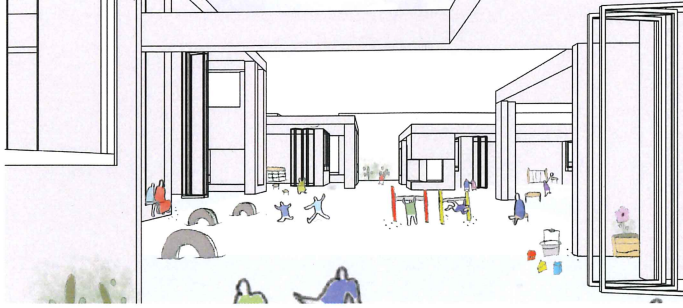
2・3歳児保育室から園児の広場を見る



園児の広場からお遊戯室・教室を見る



地域開放の殻から園児の広場を見る



公道からギャラリーを見る

